



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和2年9月1日 No. 515

夏休みの宿題

校長 齋藤 瑞穂

3週間の夏休みが終わり、子供たちの元気な姿が学校へ戻ってきました。短かったことに加え、新型コロナウィルス感染拡大や連日の猛暑のため、いつもより家で過ごす時間がが多い夏休みだったのではないかでしょうか。各教室の廊下には、そんな「お家時間」を有意義に活用して取り組んだ自由研究の力作が揃っています。

毎年、夏休みの終わり頃になると、「宿題代行業」がTVやネットのニュースで話題になります。それを見るにつけ聞くにつけ、何とも言えず情けない気持ちになります。夏休みの課題は、誰のために、どんな目的で出しているのか、また、内容や量は適当か、学校がきちんと子供たちと保護者の皆様に説明できていないことが、代行業を流行らせる一因だと思うからです。

学校から示す夏休みの課題は、学校が休みの間にも子供たちに学習を促し、1学期の学びを確かめたり定着させたりすることや、じっくり読書や研究に取り組むことで学ぶ喜びや意欲を高めることをねらいとしています。ですから、代行業者に頼み、つじつまを合わせても、課題のねらいとする子供たちの力にはなりません。そればかりか、担任や学級の友達ばかりでなく自分自身をごまかす経験は、子供にとって心の傷となって残ることでしょう。そんな後ろめたいことをするくらい

なら、できる限りやればよいし、できなければできなかつたで、(理由の如何によりますが)少し先生に叱られればよいのです。

かく言う私も、夏休みの宿題には苦労しました。ぎりぎりにならないとエンジンがかからず、毎年「来年こそは早めに取り掛かろう」「計画的にやろう」と反省することを、高校3年の夏まで繰り返しました。それも、今となっては懐かしく、提出が遅れて先生に叱られたことも含めて、温かい思い出です。その思い出に、嘘やごまかしのシミが付いていたら、決してそんなふうに振り返ることはできないでしょう。

今年の自由研究は、夏休みの短縮を考慮し、できる人はやってみよう、と働きかけたものです。それだけに、すらりと並んだ研究作品には、自ら取り組んだ児童の意欲やこだわり、熱心さが、例年以上に強く感じられる気がします。

「この夏だからこそできることを」——1学期の終業式に、子供たちに呼びかけました。それを前向きに受けとめ、暑さに負けず、自分の力でそれぞれにこの夏休みを充実させた子供たちへ、心から拍手を送ります。

ご来校の際には、そんな杉七小の子供たちの「熱い」夏の成果を、ぜひご覧ください。

2学期の行事について 感染症予防のため、2学期に予定されていた行事を以下の通り変更します。

【運動会⇒体育的行事】10月の土曜授業日に3学年ずつ、2回に分けて行います。

10月3日…4, 5, 6年 10月17日…1, 2, 3年

- ・校庭で、1学年1校時ずつ、日頃の体育学習の成果を発表します。
- ・保護者の皆様は、お子さんの学年の発表をご参観ください。



【学習発表会(展覧会)⇒作品展示】11月、12月の土曜授業日に3~6学年と1, 2年に分けて行います。

11月21日…3~6年 12月5日…1, 2年



- ・1階の廊下、多目的室、中央昇降口ホール(エビホール)を中心に図工作品を展示します。
- ・3~6年生は、体育館で杉七子ども太鼓の演奏発表も行いますので、ご参観ください。

※ 両日とも、三密を避けるため、各教室での授業参観はできません。

※ 詳細は後日改めてお知らせいたします。